

強風および少雨に対する 農作物の技術対策

平成29年6月5日
農業技術課

1 経過

平成29年6月2日に強風があり、甲府(气象台調べ)で22.9mの最大瞬間風速が観測されました。強風に伴い、スモモを中心に幼果の一部落果、スレ果の発生、枝折れ等が見られました。

また、5月26~27日に約15mmの降雨があって以降、まとまった降雨がなく土壌が乾燥しています。

以下を参考に対策を徹底して下さい。

2 技術対策

強風事後対策

(1) 果 樹

- ・モモ、スモモで見直し摘果前の園では、スレ果を中心に摘果を行う。
- ・落果が見られた園や着果量の少ない園では、収穫量の確保と新梢の徒長を防ぐため、程度の軽いスレ果は残す。
- ・着果量の少ない樹では新梢の徒長が予想されるため、新梢管理を徹底する。
- ・モモの袋かけが終わった園でも、袋が飛ばされている箇所があるので見直しを行う。
- ・ブドウ、キウイフルーツは、新梢誘引の見直しを行う。
- ・防除は防除暦に従い慣行防除を徹底する。

乾燥対策

(1) 果 樹

- ・モモ、スモモの果実肥大や大房系ブドウのジベレリン処理効果や果粒肥大促進を図るため、定期的な灌水等を実施する。
- ・モモ、スモモでは1回の灌水量を20~25mmで5~7日間隔、ブドウでは1回の灌水量を25mmで、灌水間隔を開花前では7日間隔、落花直後からは5日間隔を目安に灌水を行う。
- ・樹冠下は、敷ワラや草刈により土壌乾燥を防止する。
- ・灌水施設のない園では、樹冠下を中心に1樹当たり200~300ℓを灌水する。
- ・なお、幼果や葉に直接水がかかると、病気を助長する可能性があるため、スプリンクラーのヘッド角度等に注意する。
- ・オウトウでは、裂果の心配があるため、散水程度とし、収穫後にたっぷりと灌水する。

(2) 野菜・花き

- ・スイートコーンでは、雄穂抽出期(節間伸長期)から収穫までの時期に乾燥すると果粒の肥大が悪くなり、品質低下につながるため、適宜灌水する。特に無除けつ栽培では、葉からの水分蒸散が多くなるため、灌水も多く必要となる。
- ・野菜・花きの露地栽培では、朝方でも葉がしおれるような場合は、適宜灌水する。